

# 厚真町復旧・復興計画

## 第 2 期

### [ 参考資料 ]

資料 1	計画の策定体制	P 1～
資料 2	策定経過	P 2～
資料 3	ワークショップ（第 2 回・第 3 回）の実施結果	P 3～



## 資料 1 : 計画の策定体制

復旧・復興計画の策定体制は、下記のとおりです。アンケートやワークショップなどを通して町民意見を取り入れながら進めています。

### (1) 各組織について

#### ①厚真町胆振東部地震復旧・復興推進本部

復旧・復興計画策定の中心組織となり、内容の協議・調整を行います。厚真町長が本部長、副町長と教育長が副本部長、各課管理職等が本部員となり、計画を策定します。

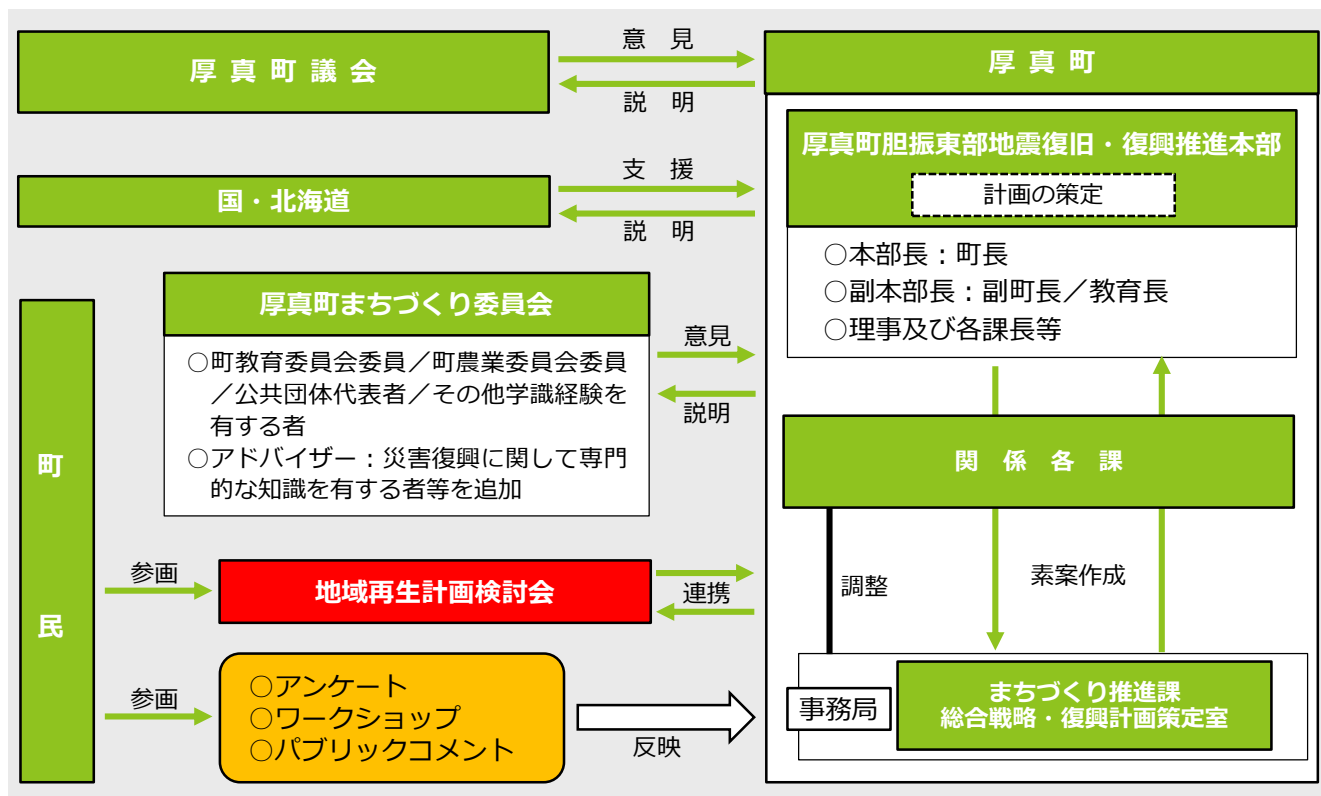
#### ②厚真町まちづくり委員会

町の説明に対して、必要な事項を調査・研究及び審議をし、意見を取りまとめます。任期を2年とし、教育委員会委員、農業委員会委員、公共団体の代表者、その他学識経験を有する者など12人で構成しています。また、復旧・復興に関して専門的な知識を有する者をアドバイザーとして委嘱しています。必要に応じて委員会内に部会を設置します。

#### ③地域再生計画検討会

各地域での再生計画の策定にあたり、自治会を中心に地域住民で構成します。現在は、幌内・富里・高丘・吉野の4地区で開催しています。町職員およびまちづくり委員会アドバイザーなどと連携し、計画策定に向けた課題整理や意見集約を行います。

図表別冊 - 1 策定体制図



資料 2 : 策定経過

◆ 第 2 期

日 付		内 容
令和 元年  (平成 31年)	10月23日	○第 4 回復旧・復興推進本部会議（第 1 期の策定について）
	10月31日	○幌内地区第 3 回地域再生計画検討会
	11月1日	○復旧・復興計画（第 1 期）策定
	5日	○富里地区第 3 回地域再生計画検討会
	7日	○高丘地区第 3 回地域再生計画検討会
	12日	○幌里地区第 1 回意見交換会
	16日	○第 2 回あつま復興未来会議
	18日	○幌内地区・富里地区・高丘地区 第 2 回個別意向調査開始（11月22日まで）
	22日	○第 5 回復旧・復興推進本部会議（第 2 期の策定状況について）
	26日	○民間団体ヒアリング
	30日	○第 3 回あつま復興未来会議
	12月11日	○町議会 議員協議会（第 2 期構成（案）の報告）
	12日	○第 2 回まちづくり委員会（第 2 期構成（案）の報告）
	19日	○幌内地区第 4 回地域再生検討会
令和 2年	1月16日	○第 6 回復旧・復興推進本部会議（第 2 期（素案）について）
	20日	○町議会 復興特別委員会（第 2 期（素案）の報告）
	20日	○富里地区第 4 回地域再生検討会
	21日	○第 3 回まちづくり委員会（第 2 期（素案）の報告）
	3月23日	○第 7 回復旧・復興推進本部会議（第 2 期（案）について）
	25日	○第 4 回まちづくり委員会（第 2 期（案）の報告）
	30日	○厚真町復旧・復興特別委員会
	4月1日	○復旧・復興計画（第 2 期）策定

## 資料3：ワークショップ（第2回・第3回）の実施結果

※第1回目（令和元年8月24日開催）の実施結果は「厚真町復旧・復興計画第1期 [参考資料]」に掲載しています。

### 1) 第2回の実施結果

#### (1)開催概要

##### 厚真町復旧・復興計画町民ワークショップ 「第2回 あつま復興未来会議」

日 時 : 2019年11月16日(土) 16:00 ~ 18:30  
場 所 : 総合福祉センター 青年室  
参加者数 : 20名

#### 1. あいさつ

- ・主催者である厚真町まちづくり推進課よりあいさつを申し上げました。

#### 2. オリエンテーション

- ・復旧・復興計画の策定概要や、会議の趣旨を説明しました。

#### 3. テーマ別ワークショップ

- ・4つのテーマに分かれて話し合いを実施しました。なお、各班のテーマについては、第1回の意見に基づいて事務局で設定しました。
- ・話し合いはグループのメンバーを変えて2回行いました。終了後、全員で話し合いの内容が書かれた模造紙を見て、共感する意見にシールをつけました。

##### ○各班のテーマ

町内のつながりづくり／災害につよいまち・ひとづくり／地域の魅力発信／町民参加の復興

～ 話し合いのテーマ ～

「(班のテーマ)」に一役買いそうなあつまの宝

「(班のテーマ)」に関する心配ごとは何か？

#### 4. ゲストからのコメント

##### ●定池祐季氏（厚真町防災アドバイザー）より

「宝」には、もともとあったものと、震災後に新しくできたものの両方があった。「心配ごと」には、以前からもともとあったものが災害の時に見える化をしたものや、災害が起きたことで時間の流れが速まり、数十年後に課題になったであろうものが、今直面する問題になってきたもの（自治会の存続など）があった。台湾の被災地で、「ピンチはチャンス」ではなく「ピンチは opportunity（機会）」という言葉聞いた。このワークショップも、課題を見える化をしてお互いに気づき教え合う機会になったのかと思う。

今回、複数のグループで共通する話題があった。次回はこれに横ぐし・縦ぐしを通すように結びつけながらお話できると、より具体的な議論ができると思う。

#### 5. 閉会

## (2) 検討結果

※参加者の意見については、当日参加者に付箋で記入頂いた原文のままを基本に、一部語尾等を補足して掲載しています。

### ①テーマ：町内のつながりづくり

#### ●参加者の意見

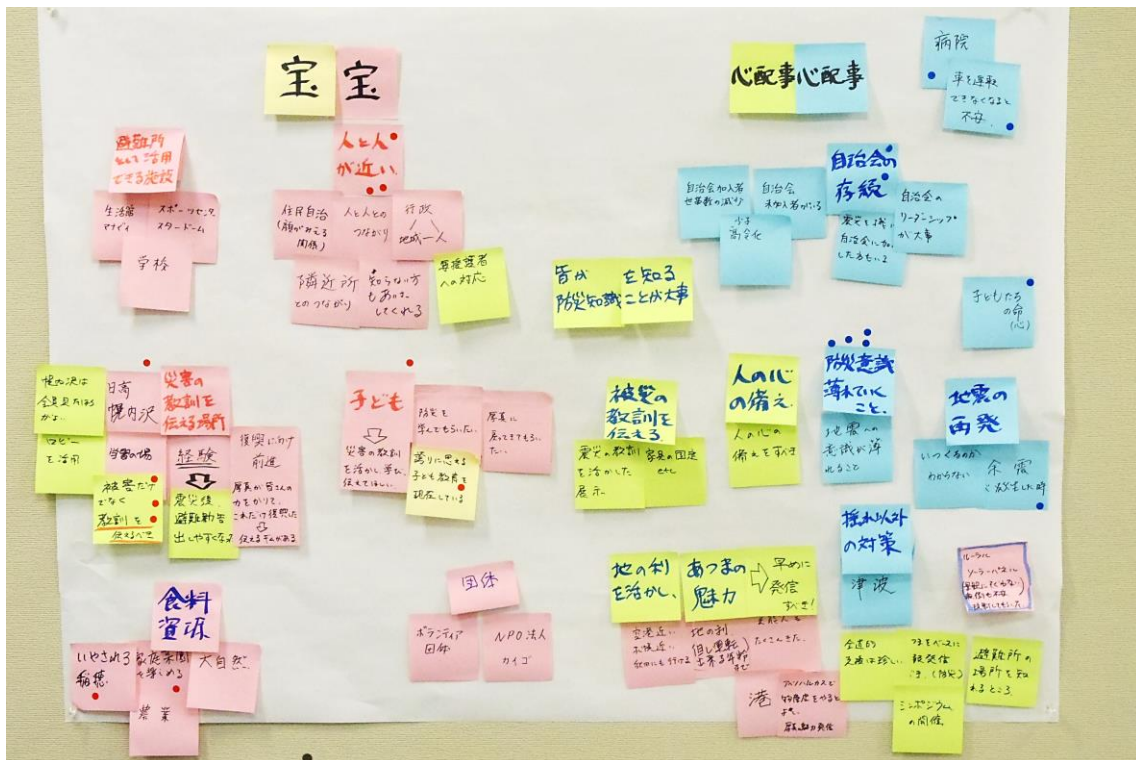
宝	
<ul style="list-style-type: none"> <li>参加できるイベント</li> <li>地元の子ども</li> <li>地元の若者</li> <li>子どもの自主的なボランティア活動</li> <li>町内の人の意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町外の人を受け入れている気持ちが出てきている気がする</li> <li>恩返ししなきゃと思っている</li> <li>小さくゆるやかなつながりがある</li> <li>地域のつながりはもともとある</li> </ul>
心配ごと	
<ul style="list-style-type: none"> <li>被災格差</li> <li>復興格差</li> <li>大変さを共有できない</li> <li>地域の中で復興が進まない人にどう寄り添えるか？</li> <li>地震後、地域の変化（移住/定住）が見えてきた</li> <li>ゆるやかでゆっくりと復興を進める</li> <li>これから住み続けられないのではという不安（交通の問題など）</li> <li>移住者だけの地域が孤立してしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見が言いにくい雰囲気</li> <li>いろんな人に集まってもらうための場やコーディネーターが必要</li> <li>イベントに参加しにくい</li> <li>空き地の利用 ソーラーパネルを作られること</li> <li>つながりたい主体が分からない</li> <li>商工会青年部と町外がどうつながれるか？</li> <li>町外の方の考えや想いを吸い上げたいけどできない</li> </ul>



## ②テーマ：災害につよいまち・ひとづくり

### ●参加者の意見

宝	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所として活用できる施設（生活館・マナビィ・スポーツセンター・スタードーム・学校）</li> <li>・人と人が近い（隣近所等）</li> <li>・災害の教訓を伝える場所（日高幌内沢）</li> <li>・被災した経験そのもの（震災後、避難勧告を出しやすくなった）</li> <li>・復興における前進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭菜園を楽しめる</li> <li>・大自然がある</li> <li>・いやされる稲穂がある</li> <li>・ボランティア団体もある</li> <li>・介護系のNPO 法人もある</li> <li>・地の利（空港・港・札幌へのアクセス）</li> <li>・全道的な支援を得た</li> </ul>
心配ごと	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに防災を学んでもらいたい</li> <li>・子どもたちに厚真に戻ってきてもらいたい</li> <li>・皆が防災知識を知ることが大事</li> <li>・被災の教訓を伝える（震災の教訓を生かした展示、家具の固定など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の心の備え</li> <li>・防災意識が薄れていくこと</li> <li>・自治会の存続</li> <li>・車を運転できなくなると不安</li> <li>・地震の再発</li> </ul>
アイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あつまを拠点に情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の場所を知れるところをつくる</li> </ul>

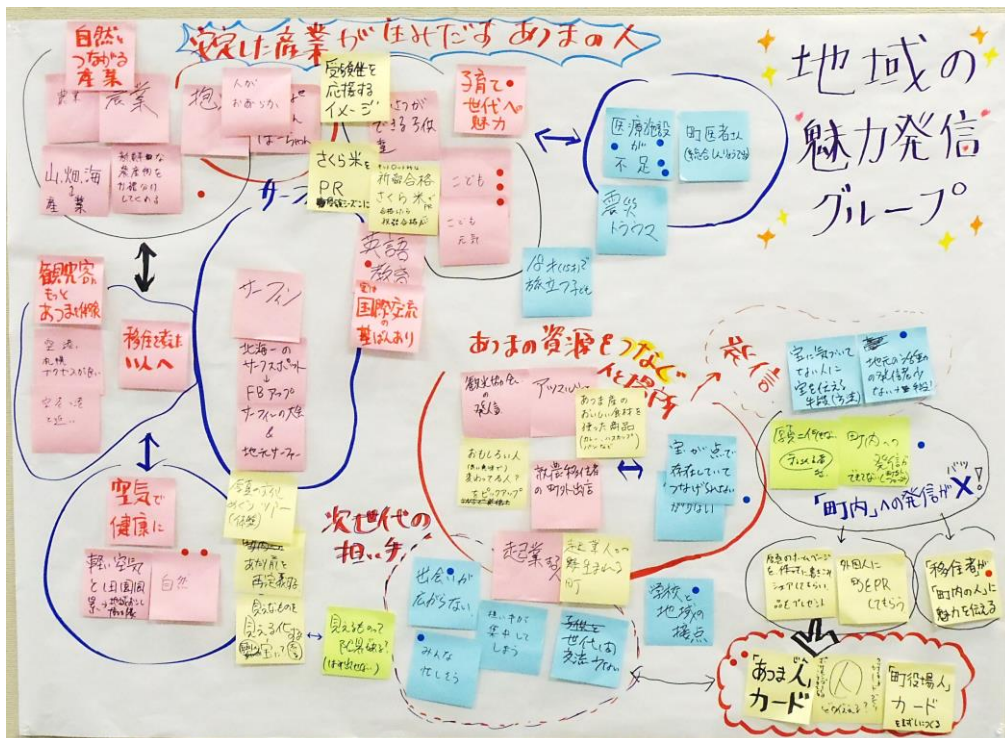




③テーマ：地域の魅力発信

●参加者の意見

宝	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然（山・畑・海）とつながる産業がある</li> <li>・新鮮な農産物をお裾分けしてくれる</li> <li>・空港・港・札幌へのアクセスが良い</li> <li>・軽い空気と田園風景</li> <li>・自然</li> <li>・観光協会の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人がおおらか</li> <li>・北海道一のサーフスポット</li> <li>・あいさつができる子どもたち</li> <li>・英語教育に力を入れている</li> <li>・実は国際交流の基盤がある</li> <li>・子どもが元気</li> </ul>
心配ごと	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出会いが広がらない</li> <li>・みんな忙しそう</li> <li>・担い手が集中してしまう</li> <li>・世代間交流が少ない</li> <li>・医療施設が不足</li> <li>・震災のトラウマがある</li> <li>・18歳（15歳）で旅立つ子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝が点で存在していてつなげられない</li> <li>・厚真の資源をつなぐ人と場所が必要</li> <li>・学校と地域の接点が少ない</li> <li>・宝に気付いていない人に宝を伝える手段</li> <li>・地元の活動の発信者少ない</li> <li>・町内への発信ができていない（町外ファースト）</li> </ul>
アイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚真の文化めぐり（体験）ツアー</li> <li>・当たり前を再定義する</li> <li>・見えないもの（宝）を見える化する</li> <li>・さくら米をPR（祈*合格 さくらまい）</li> <li>・面白い人（良い意味で）変わっている人をピックアップ</li> <li>・就農移住者の町外出店</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚真のホームページに書き込み、シェアしてもらい品をプレゼント</li> <li>・外国人に町をPRしてもらう</li> <li>・移住者が町内の人に魅力を伝える</li> <li>・「あつま人」カード</li> <li>・「町役場人」カード</li> </ul>





#### ④テーマ：町民参加の復興

##### ●参加者の意見

宝	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはなしのびっこ（読み聞かせ）</li> <li>・花フレンズ</li> <li>・青年団</li> <li>・ジギスカン</li> <li>・健康づくりの和</li> <li>・けん玉クラブ</li> <li>・無農薬野菜づくりの和</li> <li>・景観が良い</li> <li>・ほたる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会のコミュニティ</li> <li>・地域単位の集まり</li> <li>・町の人が参加する場所（あつまりんピック、パークゴルフ大会、チャリティー演芸大会、文化祭、ランタン祭り、スターフェスタ）</li> <li>・イチカラ</li> <li>・まちなか交流館しゃべる</li> <li>・災害エフエム</li> </ul>
心配ごと	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな町民グループをつなげる場所づくり</li> <li>・地域のキーパーソンの人達とつながれる場づくり</li> <li>・難病患者が集まれる場所がない</li> <li>・防災・災害を忘れないイベント・訓練</li> <li>・だれもが人目を気にせずリラックスできる場所</li> <li>・足を運びたくなるサロン、場所</li> <li>・子どものうちからボラ活動</li> <li>・高校生のボランティア見守り隊</li> <li>・お年寄りの力を役立て</li> <li>・小さな畑・花壇が作れる公住</li> <li>・これからも厚真で暮らせるのか？</li> <li>・道の駅がない</li> <li>・地域のコミュニティが弱くなってきている</li> <li>・自治会の存続</li> <li>・後継者不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚真の農業の未来への不安</li> <li>・昔からの絆やつながりが逆に“かせ”になることも</li> <li>・仮設住宅背中合わせ 何をやっているか見えない</li> <li>・お金にも時間にもとられない何でも屋が欲しい</li> <li>・外部の力とのバランス 主体性？</li> <li>・仲間づくり</li> <li>・町民間の温度差</li> <li>・モチベーションの差</li> <li>・いいだしっぺは誰？どこ？</li> <li>・「あいつにやってもらおうか」という指示待ち</li> <li>・がんばっている人を一人にしない</li> <li>・町民全員参加できるか？</li> <li>・災害のことを忘れること、忘れてしまうこと</li> <li>・津波の対策ができていない</li> </ul>
アイデア	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチをたくさん置いてみる</li> <li>・屋台を並べておまつり</li> <li>・港の活用 厚真町の物産展をする</li> <li>・面白い人カードをつくる</li> <li>・商品開発</li> <li>・色々なプロを活用して</li> <li>・焚火飲み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あつまの歌をつくろう</li> <li>・ゼロから企画（カレー作りとか）</li> <li>・誰でも飲み会</li> <li>・バンド活動</li> <li>・「哲学」を共有しよう（言葉の定義）</li> <li>・本音を出せるように</li> <li>・テーマのあるまちづくり</li> </ul>





### (3)当日の様子



グループワーク①  
(4つのテーマ別に話し合い)



グループワーク①  
(4つのテーマ別に話し合い)



グループワーク②  
(話し合いのメンバーを変えて①の内容に意見を追加)



話し合い結果の共有  
(他の班の話し合い内容を見る)



話し合い結果の共有  
(共感する意見にシールを貼り付ける)



振り返り  
(話し合い結果を振り返り、感想を共有)

## 2) 第3回の実施結果

### (1)開催概要

#### 厚真町復旧・復興計画町民ワークショップ 「第3回 あつま復興未来会議」

日 時 : 2019年11月30日(土) 16:00 ~ 18:30

場 所 : 総合ケアセンターゆくり 介護学習室

参加者数 : 16名

#### 1. あいさつ

- ・主催者である厚真町まちづくり推進課よりあいさつを申し上げました。

#### 2. オリエンテーション

- ・復旧・復興計画の策定概要や、会議の趣旨を説明しました。

#### 3. テーマ別ワークショップ

- ・第2回と同様に、4つのテーマに分かれてグループワークを実施しました。
- ・各班のテーマ

町内のつながりづくり/災害につよいまち・ひとづくり/地域の魅力発信/町民参加の復興

～ 話し合いのテーマ ～

これからのあつまに必要な取り組みは何か？

#### 4. ゲストからのコメント

##### ●定池祐季氏(厚真町防災アドバイザー)より

改めて、つながりが求められていることを感じた。つながりのあり方、つながるための方法、つながりの範囲(町内/町外など)や展開の仕方について、多岐に渡る意見交換があった。

「すでに動いています」「これから動きます」という方もいらっしゃり、その一つひとつの試みがこれからどのようにつながっていくのか、これからも伴走したい。

##### ●上村靖司氏(長岡技術科学大学・第1回復興未来会議講師)より

復興とは何か? 良い復興とは? というテーマについて、私は、「復興」と「健康」にアナロジー(類似性)があると思っている。病気から治癒していく時は、「罹病を機にタバコをやめる」など、病気になる前の既往症がその後の課題になる場合があり、これはもともとある社会課題に向き合いながら復興を考えていくことと似ている。今日も、まちという生命体の健康を取り戻すために多岐に渡る議論が行われた。厚真のことがみんな好きだ、ということを改めて感じたワークショップだった。

#### 5. 閉会

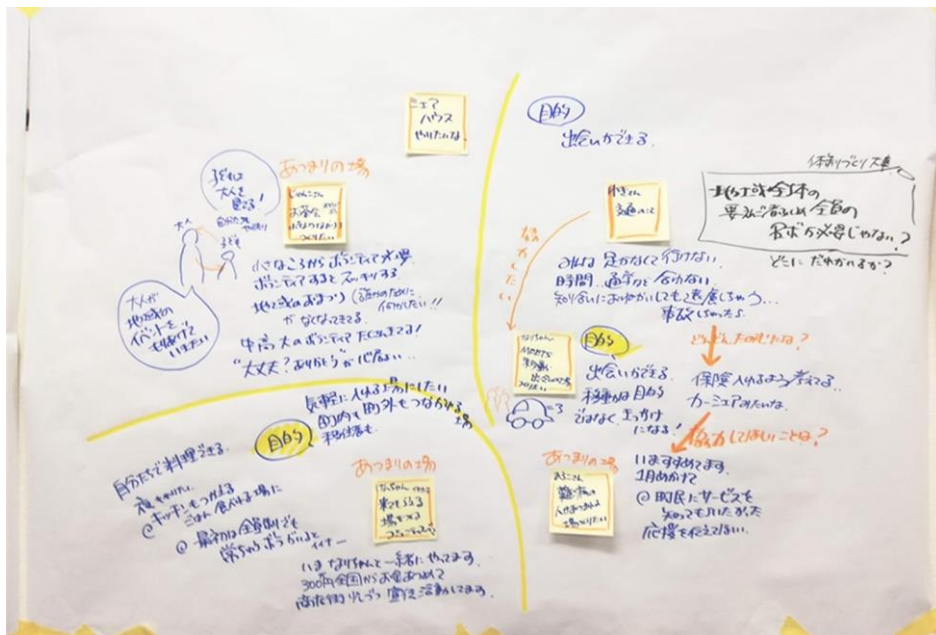
## (2) 検討結果

※参加者の意見については、当日参加者に付箋で記入頂いた原文のままを基本に、一部語尾等を補足して掲載しています。

### ①テーマ：町内のつながりづくり

#### ●話し合いの概要

- ・第2回に話題になった交通の問題や、つながりの場づくりについて話し合いました。
- ・班には、このテーマについて不安を持っている人、場をつくりたいと考えている人、すでに町民主体の活動をはじめている人がおり、どんな取り組みができるかについて具体的な意見交換ができ、2つのアイデアが出ました。



#### ●アイデア

タイトル	概要	主体
小さな集まれる場所からはじめる	お茶会、ボランティア活動、地域のお祭り、コミュニティスペースの活用、難病を抱える人たちが集まれる場など、もともとあった子どもから大人までが参加するイベントを続けて、さらに盛り上げる取り組み。	協働
生活の足からうまれる新しい出会い	交流を生み出す新しい交通の仕組みをつくる。登録制のドライバーが、一緒にドライブに行くような感覚で、車が運転できない町民を目的地まで乗せる。出会いをつくってまちのつながりを活性化させる。	協働

## ②テーマ：災害につよいまち・ひとづくり

### ●話し合いの概要

- ・第2回に話題になった、被災体験や教訓の伝承について話し合いました。
- ・「どんなことを伝えたいか」、「災害につよいまち」や「ひと」がどんなものか、「どのように伝えるのが良いか」を議論し、3つのアイデアが出ました。



### ●アイデア

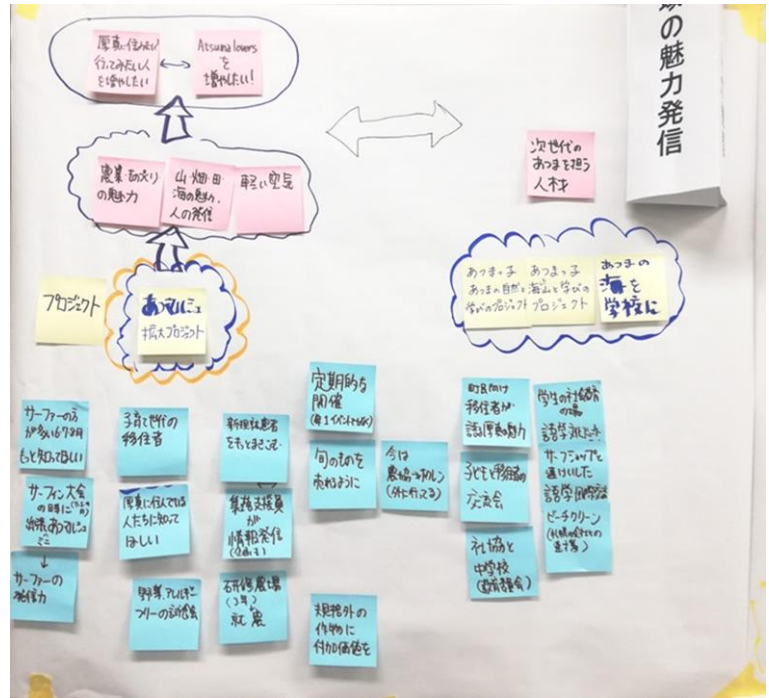
タイトル	概要	主体
災害から得た教訓を伝える会	災害の種類に応じた備蓄品や、家具の固定、寝室の安全確保など身の安全を守る方法について、モデルルームなどを設置し教訓を伝える取り組み。災害につよいまちづくりを目指す。	協働
家族・近所会議 Day	1～3か月に一度、安全対策を考える日をつくる。年に一度程度、地区ごとにも話し合う。日々のお茶会などのコミュニケーションを大事にしながら、自身の安全確保・近所の安全確保を考え、備える。	町民
「つたえる」「つながる」プロジェクト	シンポジウム、町内会、井戸端会議、家族会議など、時・場・人に合わせて教訓を伝える取り組みを実施する。地震だけではなく、防災全般に対して高い意識を持ったまちや、日ごろから顔の見えるコミュニティづくりを目指す。	協働



③テーマ：地域の魅力発信

●話し合いの概要

- ・第2回到町の宝として意見が出た「自然」「空気」などの魅力を生かして、「厚真町に住みたい人や ATSUMA LOVERS を増やす」・「次世代の厚真を担う人材を育てる」ための取り組みについて話し合いました。
- ・取り組みに際しては、サーフィン大会や町内にいるたくさんの移住者など、すでにある資源を生かすことや、町民に町の魅力を知ってもらうことなどが重要な視点として意見され、2つのアイデアが出ました。



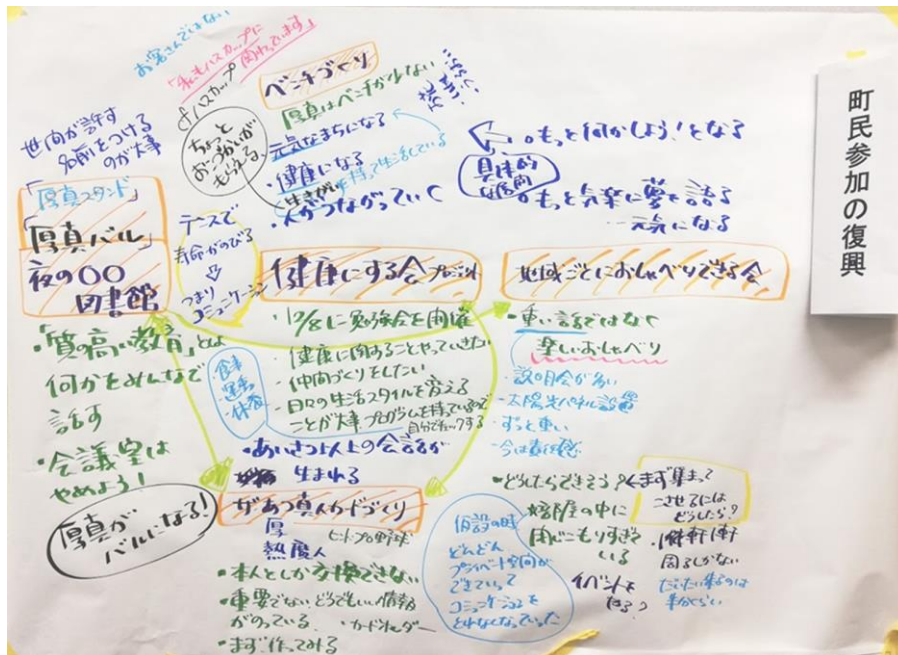
●アイデア

タイトル	概要	主体
あつまルシェ応援プロジェクト	サーフィンの大会とミニあつまルシェのコラボレーションや、あつまルシェ出店者の増加、規格外の農作物を活用してつくったものの試食会などの取り組みを通じて、月1回のプチあつまルシェを開催する。厚真の魅力を内外に発信することで、ATSUMA LOVERS を増やし、訪れる人や住んでくれる人を増やす。	協働
あつまっ子 海と山と学びのプロジェクト	まちの魅力をを知る交流の機会、海を起点とした語学・文化・国際交流、ビーチクリーン活動等を通じた学び、自然学校などの取り組みを通じて、次世代のあつまを担う人材を育てる。	協働

#### ④テーマ：町民参加の復興

##### ●話し合いの概要

- ・第2回にアイデアが出された「ベンチづくり」をはじめ、町民間の交流の機会を増やしていき、健康づくりを進めるために、町民参加/町民主体でできる取り組みについて、どんな内容が良いか意見交換しました。
- ・あいさつ以上の会話ができたり、楽しく気楽に夢を語れたり、人がつながり「何かやろう！」という意見が出るような取り組みがあることが重要な視点として意見され、5つのアイデアが出ました。



##### ●アイデア

タイトル	概要	主体
厚真を健康にする会	健康マイレージを活用して生活改善することで、みんながハスカップに関わることを通じて、町民が生きがいを持てる生活を送り健康になること、元気なまちをつくることを目指す。	協働
あつま人カード	町民一人一人がプロフィールを書いたカードを持ち、交換し合うことで、あいさつ以上の会話をする回数を増やすことを目指す。	協働
ベンチでつくるパブリック	町民が自分たちでベンチをつくり、置く。厚真じゅうの色々なところに手軽なコミュニティをつくる。	町民
厚真バル at night	色々な人が世代や立場を越えて言葉の定義を掘り下げながら哲学を共有する。集まって話す場をつくる。	町民
地域ごとにおしゃべりできる会	あつま人カード、ベンチでつくるパブリック、厚真バルなどの取り組みを通じて、地域ごとにおしゃべりできる会をつくる。	協働



(3)提案されたアイデア

**小さなあつまり場所がはじまる**

この取り組みによって実現させたい未来  
 ・もともとあつまり～大人数が参加する  
 イベントがはじまる。もともとあつまり～  
 (小さなあつまり)の活動がはじまる。大人数もあつまり～

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・お茶会、ボウリング活動  
 ・コミュニティスペース、地球のお祭り  
 ・難病の人があつまり～  
 料理がはじまる。あつまり～(あつまり)のあつまり～、あつまり～

私たちが考えました! ▶ Chika Seki, 175544, Takiyama, 2キム・アリエム

**牛乳足らずの新しい出会い**

この取り組みによって実現させたい未来  
 出会いや交流のつばかりを  
 活性化させる  
 ・あつまり～日本初!

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・電話Eメール(登録者)に来る。あつまり～  
 ・あつまり～(あつまり)交流のため、一緒にあつまり～(あつまり)感覚!  
 ・料理は発生ゴミ(検討中)がはじまる。あつまり～  
 ・あつまり～は有料。あつまり～(あつまり)。

私たちが考えました! ▶ Takiyama, 2キム, Hasegawa, Chika Seki, 2キム。

**災害から得た教訓を伝える会**

この取り組みによって実現させたい未来  
 災害に強い人づくり

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・災害の種類に  
 備えるもの(懐中電灯)(防寒) 応じた対応  
 ・身の安全を守る方法(家具の固定、寝室に家財  
 を置かない)  
 →皆さんに伝える。(展示(モジュール))

私たちが考えました! ▶

**家族・近所会議Day**

この取り組みによって実現させたい未来  
 家は自由の安全確保  
 そして近所の安全確保

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・3ヶ月・1回=1度 安全対策会議  
 ・年=1度 地区ごとの話し合い  
 →これからはもっと  
 日々お茶会や大人数!!

私たちが考えました! ▶

**"つたえる" "つなげる" プロジェクト**

この取り組みによって実現させたい未来  
 ・あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 ・あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・シンポジウム > 町内会 > 町民会 > 家検会  
 → 学校の先生、おはあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 町民でもあつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 (あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 ・継続的にPDCA  
 ・コミュニティ・マネージャー

私たちが考えました! ▶

**あつまり～海と山と学びのプロジェクト**

この取り組みによって実現させたい未来  
 次世代のあつまり～を担う  
 人材育成  
 カムバック! あつまり～!!

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ① まちの魅力(仕事含む)を知る交流の機会(初任者、起業家との交流)  
 ② 海を起点とした 語学・文化・国際交流(社会教育の場)  
 ③ ビンケリ～活動等を通じた学び(海やあつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～、自然、  
 人との交流から学ぶ)  
 ④ 自然学校(山・森での学び、NPO等とのコラボ)

私たちが考えました! ▶

**あつまり～応援あつまり～**

この取り組みによって実現させたい未来  
 山・畑・海・人・自然といった  
 厚実の魅力を内・外に発信  
 事でAtsuma loversを増し、あつまり～  
 (あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ① ササの大会時: あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 → あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 ② あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 → あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 ③ 規模外のあつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 とあつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 → あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 ①、②、③の取り組みが、1月のあつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～  
 → 応援あつまり～(あつまり)のあつまり～(あつまり)のあつまり～

私たちが考えました! ▶

厚真と健康にする会

この取り組みによって実現させたい未来  
 生きがいがある生活  
 元気な町になる  
 健康になる  
 →「私もバスカフに変わっています」

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・みんなバスカフの12区がある  
 ・お小遣いがもらえる  
 ・健康プログラムに添って生活改善する。(グループ)

私たちが考えました！

(個)あま人カード

この取り組みによって実現させたい未来  
 あいち以外のお金を  
 お回数を増やす  
 会話 予算

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ・あま人カードも  
 ・お金を増やすこと  
 ・ツレツレのイベント  
 ・町民参加の復興

私たちが考えました！

ベンチャーバスター

この取り組みによって実現させたい未来  
 厚真中のベンチャーを  
 コミュニティ(手助け)にする

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 ベンチャーを応援  
 ベンチャーを応援  
 町民参加の復興

私たちが考えました！

(個)厚真バスターナイト

この取り組みによって実現させたい未来  
 いそがしい時代を  
 乗り越え(協働)する

取り組み主体  
 町民 協働 行政

方法や手段のアイデア  
 (集まって話す場を作る)  
 (言葉の定義を掘り下げる)  
 町民参加の復興

私たちが考えました！



#### (4)当日の様子



グループワークの様子  
(第2回の振り返り)



グループワークの様子  
(取り組み内容について意見交換)



グループワークの様子  
(取り組み内容について意見交換)



グループワークの様子  
(アイデアをシートにまとめ)



話し合い結果の共有  
(アイデアを発表)



交流会  
(感想やこれからやりたいことを伝え合う)

厚真町復旧・復興計画（第2期）

〔参考資料〕

令和2年4月発行

編集・発行 北海道厚真町

連絡先 厚真町まちづくり推進課  
〒059-1692 厚真町京町120番地  
TEL 0145-27-3179